

公 開
資 料 3

第 3 2 6 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 4 年 5 月 2 5 日

日 本 学 術 会 議

公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
Ⅲ 公開審議事項					
1. 規則関係					
提案 1	「補欠の会員の選考 手続について」の一部 改正について	選考委員会委員 長	4-9	「第26期日本学術会議 会員候補者の選考方針」 (令和4年4月19日日本学 術会議)の決定を踏まえ、 「補欠の会員の選考手続 について」について改正す る必要があるため。	会長 会員選考プロセスの見 直しについて(検討案) 7その他
2. 委員会関係					
提案 2	(機能別委員会) 国際委員会 (1)運営要綱の一部改 正(新規設置1件) (2)分科会委員の決定 (新規1件)	(1)国際委員会委員 長 (2)会長	10-12	国際委員会に、「持続可 能な社会のための科学と 技術に関する国際会議20 22分科会」を設置するこ とに伴い、運営要綱を一 部改正するとともに、分 科会委員を決定する必要 があるため。 ※国際委員会5月23日 承認予定	高村副会 長 (1)国際委員会運営要 綱第2 (2)内規12条2項4号
提案 3	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改 正(委員の構成の変 更1件) (2)委員会及び分科会 委員の決定(追加3 件) (3)小委員会委員の決 定(新規2件)	(1)地球惑星科学 委員会委員長 (2)第一部長、第 二部長 (3)第三部長	13-15	(1)小委員会委員の構 成の変更に伴い、運営要 綱の一部改正する必要が あるため。 (2)分野別委員会にお ける委員及び分科会委員 を決定する必要があるた め。 (3)分野別委員会にお ける小委員会委員を決定 する必要があるため。	第一部 長、第二 部長、第 三部長 (1)会則27条1項 (2)(3)内規18条
3. 地区会議関係					
提案 4	地区会議構成員の所 属地区の変更を決定 すること	科学者委員会委員 長	16-17	地区会議構成員から勤 務地等の所在する地区 会議以外の地区会議へ の所属変更の申出があ ったため。	望月副会 長 地区会議運営要綱第5
4. 国際関係					
提案 5	令和4年度代表派遣 について、実施計画 の追加、変更及び派 遣者を決定すること	会長	18-19	令和4年度代表派遣に ついて、実施計画の追 加、変更及び派遣者を 決定する必要があるた め。	高村副会 長 国際学術交流事業に 関する内規19条2項、 21条、22条
5. その他のシンポジウム等					
提案 6	公開シンポジウム 「地球の未来を切り 拓く—育種学の役割— 」の開催について	農学委員会委員 長	20-21	主催：日本学術会議農 学委員会育種学分科会 日時：令和4年7月7日 (木)15:00～17:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	— 内規別表第1
提案 7	公開シンポジウム 「運動器疼痛に対する 本邦の診療研究体制 整備」の開催につ いて	臨床医学委員会 委員長	22-24	主催：日本学術会議臨 床医学委員会慢性疼痛 分科会 日時：令和4年7月23 日(土)13:00～14:45 場所：オンライン開催 ※第二部承認	— 内規別表第1

提案8	公開シンポジウム 「事故による子どもの傷害を予防する—子ども中心の新たな予防システムの構築へ」の開催について	臨床医学委員会委員長、心理学・教育学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	25-27	主催：日本学術会議臨床医学委員会・心理学・教育学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会 日時：令和4年7月23日（土）14:00～17:00 場所：オンライン開催 ※第一部、第二部、第三部承認	—	内規別表第1
提案9	公開シンポジウム 「誰もが夢を追求できるアバター共生社会の実現を目指して」の開催について	情報学委員会委員長	28-29	主催：日本学術会議情報学委員会ITの生む諸課題検討分科会 日時：令和4年7月26日（火）13:00～17:00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案10	公開シンポジウム 「みんなで考えるカーボンニュートラルと化学」の開催について	化学委員会委員長、総合工学委員会委員長、材料工学委員会委員長、環境学委員会委員長	30-31	主催：日本学術会議化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会、環境学委員会環境科学分科会 日時：令和4年7月30日（土）13:00～17:00 場所：早稲田大学西早稲田キャンパス63号館2階（東京都新宿区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第1
提案11	公開シンポジウム 「ウクライナ戦争の勃発と《共通の安全保障》のゆくえ」の開催について	政治学委員会委員長	32-33	主催：日本学術会議政治学委員会国際政治分科会 日時：令和4年7月29日（金）14:00～16:50 場所：オンライン開催（状況次第ではハイブリッド開催に変更） ※第一部承認	—	内規別表第1
提案12	公開シンポジウム 「地球環境の未来を考える—カーボンニュートラルの実現に向けて—」の開催について	第三部長、科学者委員会委員長	34-36	主催：日本学術会議第三部会、北海道地区会議 日時：令和4年8月16日（火）13:00～17:40（予定） 場所：北海道大学学術交流会館（北海道札幌市）（ハイブリッド開催） ※第三部、科学者委員会承認	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム 「品質保証と創薬研究」の開催について	薬学委員会委員長	37-38	主催：日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会、公益社団法人日本薬理学会 日時：令和4年11月30日（水）～12月3日（土）のいずれか1日 ※第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会（JPW2022）会期中（時間未定） 場所：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市） ※第二部承認	—	内規別表第1

6. 後援

提案14	国内会議の後援をすること	会長	39	以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①第48回全国語学教育学会年次国際大会 ②日本科学振興協会第1回総会・キックオフミーティング ③こども環境学会2022年大会（東京）『クライシスとこどもの環境』	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	---	----	-----------------

7. その他

	件名	資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、6月29日(水)13:30～開催。	40

補欠の会員の選考手続について（平成 18 年 6 月 22 日日本学術会議第 18 回幹事会申合せ）の一部を次のように改正する。

改 正 後	改 正 前
<p>(略)</p> <p>1. (略)</p> <p>2. (略)</p> <p>3. 依頼を受けた部は、一般の連携会員の中から<u>3</u>人以内の複数の候補者を選定し、別紙様式により選考委員会に推薦する。<u>依頼を受けた部における候補者の選定に際しては、選出しようとする分野の学問的専門性を踏まえた審議に加え、当該分野に隣接する分野の委員の参画を得て、より多面的な視点から審議を行う。</u></p> <p>4. (略)</p> <p>5. (略)</p>	<p>会員が任期の途中において定年、死亡、辞職又は免職により退任する場合、その後任者となる者（以下「補欠の会員」という。）の選考手続については、以下に定める要領に従って行うものとする。ただし、補欠の会員の選任は、少なくとも補欠の会員となった者が1回の通常総会に出席できるよう、任期末の前年の10月の総会以前の総会において補欠の会員候補者の承認を行うことが可能な場合に実施することができる。</p> <p>1. 幹事会は、前任者の所属部等を考慮して補欠の会員の候補者（以下「候補者」という。）の推薦を依頼する部を決定する。</p> <p>2. 会長は、幹事会の決定を受けて当該部に対し、候補者の推薦を依頼する。</p> <p>3. 依頼を受けた部は、一般の連携会員の中から<u>5</u>人以内の複数の候補者を選定し、別紙様式により選考委員会に推薦する。</p> <p>4. 選考委員会は、前項の推薦に基づいて、順位を付して候補者の名簿を作成し、幹事会に提出する。</p> <p>5. 幹事会は、前項の名簿に基づいて1人の候補者を選定し、総会の承認を得て、内閣総理大臣に推薦することを会長に求める。</p>

6. 第3項及び前項において候補者を選定し、並びに第4項において候補者の名簿を作成するに際しては、「第26期日本学術会議会員候補者の選考方針」（令和4年4月19日日本学術会議）2.の要件及び3.（2）の観点を考慮する。

7.（略）

別紙様式1

推薦書

（補欠会員候補者関係）

（略）

6. 本申合せによる選考手続は、補欠の会員を選任する事由が発生した後遅滞なく開始し、適時に総会の承認を得ることができるように行うものとする。ただし、前任者の退任事由が定年である場合には、適時に総会の承認を得ることができるようにするため、前任者の定年に達する日に先立ち手続を開始することができる。

別紙様式1

推薦書

（補欠会員候補者関係）

（略）

定年（又は 死亡、辞職、免職）により退任予定の（又は 退任した）〇〇 〇〇 会員の後任者として、一般の連携会員である別紙の者を推薦します。

(別紙)

補欠の会員の候補者（3人以内の複数）(注1)

順位 (注2)	氏名	生 年 月 日	性 別	専門 分野 (注3)	現職	主たる 活動領 域 (注4)	地 区 (注5)	推薦理由 (注6に該当がある場 合は本欄に記載のこ と) (100字以内)

定年（又は 死亡、辞職、免職）により退任予定の（又は 退任した）〇〇 〇〇 会員の後任者として、一般の連携会員である下記の者を推薦します。

記

補欠の会員の候補者（5人以内の複数）

氏 名	生年月日	専門分野	現 職	推薦理由 (100字以内)

(注1) 日本学術会議法第17条において、優れた研究又は業績がある科学者のうちから会員の候補者を選考するとされています。

(注2) 候補者について優先順位がある場合は番号を付してください。

(注3) 「専門分野」は、分野別委員会に対応する30分野の中から一つを記入してください。

(注4) 大学・研究機関以外に産業界、医療界、法曹界、教育界などでの実績がある場合は記入してください。

(注5) 日本学術会議の7つの地区で記載してください。

(注6) 第26期日本学術会議会員候補者の選考方針（令和4年4月19日日本学術会議。以下「選考方針」という。）において、会員候補者の選考に当たっては、以下のいずれかの要件を備えていると認められる者であることを考慮するとされています。候補者が該当する場合には、アに該当、イに該当、ア及びイに該当などとして記載してください。

ア 国内外の学術及び社会の動向を的確に把握し、科学・技術の発展方向を広い視野から展望して異なる専門分野間をつなぐことができること

イ 国内外の学術及び社会の動向を的確に把握し、科学・技術の発展方向を広い視野から展望しつつ、政府や社会と対話し、課題解決に向けて取り組み意欲と能力を有すること

別紙様式 2

日本学術会議補欠会員候補者推薦書

(略)

(注1) 「専門分野」は、分野別委員会に対応する30分野の中から一つを記入する。

(注2) 候補者について優先順位がある場合は、氏名の後に番号を付してください。

別紙様式 2

日本学術会議補欠会員候補者推薦書

(略)

＜実務の現場での実績（※1）、国際関係での実績、重点課題等
に関連する研究実績（※2）がある場合には、3件以内で記入し
て下さい＞

※[実務の現場][国際関係][重点課題等]から選択して下さい

業績 1：

※[実務の現場][国際関係][重点課題等]から選択して下さい

業績 2：

※[実務の現場][国際関係][重点課題等]から選択して下さい

業績 3：

（※1）大学・研究機関だけではなく、産業界、医療界、法曹界、教育界
といった実務の現場における優れた研究又は業績

（※2）第26期に重点的に取り組む事項、分野横断的・中長期的に取り
組む課題等を以下のとおり想定している。

① 持続可能で安全な社会づくりのための取組（キーワードの例
示：カーボンニュートラル、気候変動、防災減災、パンデミック等）

② 人間性が尊重される豊かで幸福な社会の実現（キーワードの
例示：人口縮小、格差、多様性、人権、多文化等）

③ ①、②に資する学術の発展（キーワードの例示：研究力、人
材育成、頭脳循環等）

④ 国際連携の一層の推進

--	--

附 則
この決定は、決定の日から施行する。

○国際委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前			
別表1				別表1			
分科会 (略)	調査審議事項 (略)	構成 (略)	備考 (略)	分科会 (略)	調査審議事項 (略)	構成 (略)	備考 (略)
科学者に関する国際人権対応分科会	(略)	(略)	(略)	科学者に関する国際人権対応分科会	(略)	(略)	(略)
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2022分科会	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2022を開催するために必要な企画立案及び実施準備にすること	副会長（日本学術会議会則第5条第3号担当）及び会員又は連携会員若干名	設置期間：令和4年5月25日～令和5年3月31日	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

国際委員会分科会の設置について

分科会等名：持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2022 分科会

1	所属委員会名	国際委員会
2	委員の構成	副会長（日本学術会議会則第5条第3号担当）及び会員又は連携会員若干名
3	設置目的	本分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るため、日本学術会議が年1回開催している国際会議の企画及び実施を目的とし設置する。
4	審議事項	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2022を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること。
5	設置期間	令和4年5月25日～令和5年3月31日
6	備考	※新規設置（平成15年から「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」を毎年開催しており、そのための分科会を都度設置している。）

【機能別委員会】

○委員の決定（新規1件）

（国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2022分科会）

氏名	所属・職名	備考
高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター教授	第一部会員、副会長
日比谷 潤子	学校法人聖心女子学院常務理事	第一部会員
和氣 純子	東京都立大学大学院人文科学研究科教授	第一部会員
武田 洋幸	東京大学執行役・副学長、大学院理学系研究科教授	第二部会員、第二部部长
小池 俊雄	国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）センター長、東京大学名誉教授、政策研究大学院大学連携教授	第三部会員
秋葉 澄伯	弘前大学特任教授	連携会員
郡山 千早	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授	連携会員

【設置：第326回幹事会（令和4年5月25日）、決定後の委員数：7名】

分野別委員会運営要綱（平成26年 8 月28日日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前					
別表第 1					別表第 1					
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)	
地球惑星科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	地球惑星科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
	地球惑星科学委員会 IGU分科会	(略)	(略)	(略)		地球惑星科学委員会 IGU分科会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地球惑星科学委員会 IGU分科会IAG小委員会	(略)	(略)	(略)		地球惑星科学委員会 IGU分科会IAG小委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)	

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

【分野別委員会】

○委員の決定（追加3件）

（心理学・教育学委員会乳幼児発達・保育分科会）

氏名	所属・職名	備考
一見 真理子	お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 客員研究員	連携会員

【設置：第306回幹事会（令和2年12月24日）、追加決定後の委員数：12名】

（基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会）

氏名	所属・職名	備考
近藤 科江	東京工業大学生命理工学院学院長	連携会員

【設置：第302回幹事会（令和2年10月29日）、決定後の委員数：19名】

（薬学委員会）

氏名	所属・職名	備考
狩野 光伸	岡山大学副理事・学術研究院ヘルスシステム 統合科学学域教授	第二部会員

【設置：常設（細則第10条第2項）、決定後の委員数12名】

【小委員会】

○委員の決定（新規2件）

（環境学委員会環境思想・環境教育分科会環境教育における体験の再検討小委員会）

氏名	所属・職名	備考
馬奈木 俊介	九州大学大学院工学研究院都市システム工 学講座教授	第一部会員
井上 真理子	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総 合研究所多摩森林科学教育的資源研究グル ープ園主任研究員	連携会員
工藤 由貴子	和洋女子大学総合研究機構特別研究員	連携会員
河野 哲也	立教大学文学部教育学科教授	連携会員
関 礼子	立教大学社会学部教授	連携会員

【設置：第323回幹事会（令和4年3月24日）、決定後の委員数：8名】

(機械工学委員会生産科学分科会生産科学構想小委員会)

氏名	所属・職名	備考
須藤 雅子	ファナック株式会社 FA 事業本部・技監	第三部会員
光石 衛	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 理事	第三部会員
足立 幸志	東北大学大学院工学研究科機械機能創成専 攻教授	連携会員
厨川 常元	東北大学共創戦略センター特任教授	連携会員
越塚 誠一	東京大学大学院工学系研究科システム創成 学専攻教授	連携会員
佐田 豊	株式会社東芝執行役員常務研究開発センタ ー所長	連携会員
塚田 竹美	本田技研工業株式会社事業開発本部アシス タントチーフエンジニア	連携会員

【設置：第 325 回幹事会（令和 4 年 4 月 18 日）、決定後の委員数：13 名】

地区会議の構成員の変更について

氏名	勤務地等が所在する地区会議	所属を希望する地区会議	備考
香坂 玲	関東地区	中部地区	連携会員

現職名：東京大学大学院 農学生命科学研究科森林科学専攻 森林風致計画学研究室教授

変更理由：中部地区における地区会議活動を継続するため

●会員・連携会員の所属地区の変更に係る運用について

〔平成 25 年 10 月 25 日〕
第 34 回科学者委員会決定

- 日本学術会議地区会議運営要綱(平成 17 年 10 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定)
(各地区の構成員)

第 5 (前略)各地区の構成員は、原則として当該地区に勤務地(勤務地がない場合は居住地)を有する会員及び連携会員とする。

ただし、会員又は連携会員は、申し出により、科学者委員会及び幹事会の議を経て、所属地区を変更することができる。

1. 現状の運用

会員及び連携会員(以下、「会員等」という。)から、勤務地又は居住地が変更された旨連絡を受けた場合、所属地区変更の意思確認を行った上で、科学者委員会の議を経て、幹事会に変更を提案し、決定してもらっている。

当該運用は、上記規定が運営要綱に盛り込まれ施行された平成 19 年 10 月以降、当初から採られていたものである。

※ 当該改正以前の「構成員」については、各部が当該地区に勤務又は居住する会員 3 名を選出することを原則としていた。

2. 問題点

規定をそのまま読めば、勤務地が A 地区から B 地区に変更になった場合、自動的に B 地区の地区会議構成員となるはずのところ、現状の運用では、

- 本人の変更の意向が確認できた場合には、A 地区から B 地区への所属地区変更をすべて科学者委員会及び幹事会に諮っており、本来必要のない手続を踏んでいる。
- 本人の変更の意向が確認できず、所属地区が元の所属地区(A地区)のままになってしまっている例がある。

3. 新たな運用

運営要綱上、勤務地(及び居住地)が変更になれば自動的に所属地区会議が変更になるという大前提に立ち返り、以下のとおり扱うこととする。

- ① 会員等に勤務地等の変更があった場合、企画課から会員等に、自動的に所属地区が移ることを連絡する。
- ② 所属地区変更を企画課において記録するとともに、各地区会議事務局に連絡する。
- ③ 会員等から、勤務地等が所在しない地区を所属地区としたいという意向が示された場合、企画課は、理由を付した上での申出を促し、申出を受けて科学者委員会及び幹事会における議論に供する。
- ④ 会員等からの申出に相当の理由がある場合、科学者委員会及び幹事会の議を経て所属地区を変更する。
- ⑤ 科学者委員会及び幹事会は、会員等からの申出に相当の理由がないと判断した場合、所属地区の変更を認めず、科学者委員会委員長は、申出をした者に所属地区を勤務地等と違わないよう懲諭する。

令和4年度代表派遣実施計画の追加・変更及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和4年度代表派遣実施計画の追加・変更及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	内 容
1	ISC 科学における自由と責任 の委員会 (CFRS)	5月3日 ～ 5月4日	オンライン	白波瀬 佐和子 第一部会員 (東京大学大学院人文社会系研究科 教授)	<ul style="list-style-type: none"> 代表派遣計画の追加 派遣者の決定 ※急きょオンライン形式での開催 が決定したため会期後の承認を お願いするもの
2	第26回国際昆虫学会議 (ICE 2022)	7月17日 ～ 7月22日	ヘルシンキ (フィンランド)	小野 正人 連携会員 (玉川大学学術研究所所長)	<ul style="list-style-type: none"> 派遣者の決定 ※実施計画については第322回 幹事会(令和4年2月24日)にて 承認済み。 ※本人の都合によりビデオメッセ ージでの出席予定
				嶋田 透 連携会員 (学習院大学理学部生命科学科教授 (生物遺伝資源学)、 東京大学名誉教授)	<ul style="list-style-type: none"> 代表派遣計画の追加 派遣者の決定 ※現地出席予定
3	S20 (Science 20) プレサミット	7月27日 ～ 7月28日	未定 (インドネシア) / ハイブリット形式	未定	<ul style="list-style-type: none"> 代表派遣計画の追加 ※S20 事前準備会合 ※出席形式検討中
4	南極研究科学委員会 (SCAR) 総会	8月1日 ～ 8月10日	オンライン	中村 卓司 第三部会員 (情報・システム研究機構国立極地研究 所所長)	<ul style="list-style-type: none"> 派遣者の決定 ※実施計画については第322回 幹事会(令和4年2月24日)にて 承認済み。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	内 容
5	理論応用力学国際会議 (ICTAM)及び国際理論応用 力学連合(IUTAM)総会	8月21日 ～ 8月24日	ケンブリッジ (英国)／ ハイブリッド形式	高木 周 連携会員 (東京大学大学院工学系研究科教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第322回 幹事会(令和4年2月24日)にて 承認済み。 ※現地出席予定
				—	・代表派遣の取止め ※実施計画については第322回 幹事会(令和4年2月24日)にて 承認済み。 ※派遣予定者の都合によるもの
6	国際歴史学会議(CISH)第23 回ポズナニ大会	8月21日 ～ 8月27日	ポズナニ (ポーランド)／ ハイブリッド形式	羽場 久美子 連携会員 (青山学院大学大学院国際政治経済 学研究科教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第322回 幹事会(令和4年2月24日)にて 承認済み。 ※現地出席予定

公開シンポジウム

「地球の未来を切り拓く—育種学の役割—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会育種学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本育種学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）7月7日（木）15:00 ～ 17:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：未定

7. 開催趣旨：

地球規模の気候変動による生産減少、世界的な食料需要の増大、我が国の食料自給率の低下など食糧の安定供給に対する国民の不安が高まっている。その一方で、スマート農業の実践、AI の利用、ゲノム科学による革新的な育種の可能性など、新たな革新も進んでいる。

育種学分科会では、30年後、50年後の社会のために育種学は何にどう取り組むべきかを広い視野で考え直す必要があると考え、日本育種学会との共催で公開シンポジウム「地球の未来を切り拓く—育種学の役割—」を開催する。本シンポジウムでは、将来の育種学を考えるうえで指針となる広い知見を提供していただける先生方を講師に招く。育種学に関わる研究者や学生だけではなく、一般の方々も含め議論する。なお、本シンポジウムは、今後、連続開催とする予定である。

8. 次 第：

挨拶

15:00 開会の挨拶及び趣旨の説明

経塚 淳子（日本学術会議第二部会員、東北大学生命科学研究科教授）

加藤 鎌司（一般社団法人日本育種学会会長）

第1セッション「講演会」

◇総合司会

最相 大輔（岡山大学資源植物科学研究所准教授）

15:10 「国際社会の中での日本農業：国連食糧農業機関（FAO）、国際貿易機関（WTO）、生物多様性条約（CBD）での議論を俯瞰して」
八木 信行（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

休憩（10分）（16:00～16:10）

第2セッション「パネルディスカッション」

◇総合司会

佐藤 豊（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授）

16:10 パネルディスカッション

八木 信行（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

最相 大輔（岡山大学資源植物科学研究所准教授）

磯部 祥子（公益財団法人かずさ DNA 研究所先端研究開発部室長）

吉田 薫

（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授）

登壇者2名調整中

閉会の挨拶

堤 伸浩

（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「運動器疼痛に対する本邦の診療研究体制整備」の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会慢性疼痛分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和4年（2022年）7月23日（土）13：00～14：45

5. 場 所：オンライン開催

6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

我が国は世界に先駆けて超高齢社会となり高齢者・超高齢者の運動器の疾患と障害に関連した運動器疼痛患者が多く、更に壮年期～中年期も運動器疼痛の罹患率が高い。運動器疼痛に対して集学的痛みセンターの診療体制が整備されてきたが、未だ十分な解決には至っておらず、新たな取組が求められている。このため、慢性疼痛分科会として科学的知見に基づき専門的な見地から広く社会に向けて、運動器疼痛に対する本邦の診療研究体制整備について公開シンポジウムを開催する。

8. 次 第：

総合司会 中村 雅也（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学医学部整形外科学教室教授）

【挨拶】

13:00 開会の辞

越智 光夫（日本学術会議第二部会員、広島大学学長）

13:05 来賓挨拶

厚生労働省（※登壇者調整中）

【講演】

「運動器疼痛の本邦の診療研究体制整備の現状と課題」

◇司会

村井 俊哉（日本学術会議連携会員、京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座）

(精神医学) 教授)

- 13:10 『運動器疼痛の本邦の診療研究体制整備の現状と課題』
中村 雅也 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学医学部整形外科学教室
教授)

「運動器疼痛に対する研究の取り組み」

◇司会

関口 美穂 (日本学術会議特任連携会員、福島県立医科大学医学部附属実験動物研
究施設教授)

- 13:30 『運動器疼痛に対する研究の取り組み』
小杉 志都子 (慶應義塾大学医学部麻酔学教室准教授)

「運動器疼痛の本邦の診療研究体制整備に求められるアクションプラン」

◇司会

紺野 慎一 (日本学術会議特任連携会員、福島県立医科大学医学部整形外科学講座
教授)

- 13:50 『運動器疼痛の本邦の診療研究体制整備に求められるアクションプラ
ン』
住谷 昌彦 (日本学術会議連携会員、東京大学医学部附属病院緩和ケア診
療部准教授)

【総合討論】

◇総合司会

中村 雅也 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学医学部整形外科学教室教授)
関口 美穂 (日本学術会議特任連携会員、福島県立医科大学医学部附属実験動物研
究施設教授)

◇コメンテーター

小杉 志都子 (慶應義塾大学医学部麻酔学教室准教授)
住谷 昌彦 (日本学術会議連携会員、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部准教
授)

- 14:40 閉会の辞
戸山 芳昭 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学名誉教授、一般財団法人
国際医学情報センター理事長)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

「事故による子どもの傷害を予防するー子ども中心の新たな予防システムの構築へ」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会・心理学・教育学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：消費者庁、東京都、東京消防庁、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人こども環境学会、公益社団法人日本小児科学会、公益社団法人日本小児保健協会（予定）
4. 日 時：令和4年（2022年）7月23日（土）14：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

事故による子どもの傷害は多発しており、同じ年齢層の子どもに同じような事故が起り続けている。

このため、現在予防策と考えられているものは有効に機能しているのか、傷害のデータ収集については関連機関で分断されていないか、疫学的に検討できるデータは不足していないか、予防活動に関しても関連機関で分断され効果的な施策や定量的な評価が十分行われていないのではないか等の問題意識のもと、予防効果の受け手である子どもやそのケアラーを中心とした視点に立ち、有効な予防活動を展開するためのシステムを学際的・業際的なアプローチによって構築するため、多様な観点から検討する。

本シンポジウムでは、主に14歳以下の非意図的な傷害（殺人や無理心中などの意図的な傷害を含まず）の予防を目的に、事故による子どもの傷害に造詣の深い専門家や関係する組織の方々に登壇いただき、子どもの傷害についての現状、課題、対応を述べていただくとともに、それらの実態に対して科学的にどのように取り組み、どうしたらその発生数を減らすことができるか、どのようなシステムが必要か等について議論する。

なお、本シンポジウムを企画する第25期子どもの成育環境分科会は、臨床医学委員会（第二部）、心理学・教育学委員会（第一部）、健康・生活科学委員会（第二部）、環境学委員会（第三部）、土木工学・建築学委員会（第三部）合同の分科会となっており、本シ

ンポジウムでの議論も踏まえ、事故による子どもの傷害予防に向けて、学際的・業際的なアプローチや体制の必要性に関するメッセージを伝えるとともに、さらに議論を深めたいと考えている。

8. 次 第

司会：分科会委員から選任

開会挨拶

山中 龍宏（日本学術会議特任連携会員、緑園こどもクリニック院長）

【第1部：傷害予防の現状と課題】

- 14:00 わが国の子どもの傷害の実態と課題
山中 龍宏（日本学術会議特任連携会員、緑園こどもクリニック院長）
- 14:10 救急搬送におけるデータ収集の課題
東京消防庁（登壇者調整中）
- 14:20 医療機関におけるデータ収集の課題
岸部 峻（東京都立小児総合医療センター救命救急科医員）
- 14:30 学校管理下の事故のデータと課題
森本 晋也（文部科学省総合教育政策局安全教育調査官）
- 14:40 子どもの事故予防への行政（自治体）の取組
東京都生活文化局（登壇者調整中）
- 14:50 子どもの事故予防への行政（国）の取組
消費者庁（登壇者調整中）

【第2部：データを収集・活用するための学術】

- 15:00 現場で運用可能な傷害情報収集システムの構築
北村 光司（国立研究開発法人産業技術総合研究所情報・人間工学領域主任研究員）
- 15:10 ヘテロなデータを活用する情報処理技術
相澤 彰子（日本学術会議第三部会員、国立情報学研究所コンテンツ科学研究系教授）
- 15:20 個人情報を含むデータ処理の課題
宮地 充子（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻教授）
- 15:30 環境デザインに子どもの傷害データを活用する試み
伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部シス

テムデザイン工学科教授)

- 15:40 子ども・保護者の視点に立つ事故予防の生活デザイン
定行 まり子 (日本学術会議連携会員、日本女子大学家政学部教授)
- 15:50 新たな傷害制御学の創造に向けて
西田 佳史 (日本学術会議特任連携会員、国立大学法人東京工業大
学教授)

【総合討論】

Data to Design: データを成育環境デザインにつなげる現場共創型総合科学の
創造

矢口 まゆ (町田市議会議員)

出口 貴美子 (NPO 法人 Love & Safety おおむら代表)

第1部、第2部で講演した専門家、組織の方々

閉会挨拶

西田 佳史 (日本学術会議特任連携会員、国立大学法人東京工業大学教授)

9. 関係部の承認の有無：第一部、第二部、第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

「誰もが夢を追求できるアバター共生社会の実現を目指して」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会 IT の生む諸課題検討分科会
2. 共 催：一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会（予定）
3. 後 援：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（予定）
4. 日 時：令和4年（2022年）7月26日（火）13：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

我が国の少子高齢化問題に対して、人間の能力を拡張する技術革新によって生産性を向上し、労働力不足の問題を解決し、誰もが安全安心にクリエイティブな仕事や社会活動に参加して生きていけるような社会の実現は、未来社会を展望し、困難もあるが、実現すれば大きなインパクトが期待される社会課題の一つである。感染症が再拡大した場合に、強靱な日常生活と生産性をどのように維持していくかも重要な課題である。一方で、生産性の観点のみならず、精神的にゆとりのある社会の実現も重要テーマである。内閣府が主導するムーンショットプロジェクト（目標1）では、ICT やロボット、アバターを広く市民の皆様が体験共有していただき、身体的能力や認知能力、知覚能力を技術的に強化し、身体的能力や時間・距離などの制約を小さくすることで、誰もが夢を追求できるアバター共生社会の実現を目指している。その中で、人文社会系の研究者の方々とも連携しながら、技術課題と制度課題を様々な視点から議論し、研究開発にフィードバックする。皆様方が抱く「目指す社会像」とその実現に向けた IT の諸課題とその解決策について、活発な討論の場にできればと考えている。

8. 次 第：

司会：大場 みち子（日本学術会議第三部会員、公立ほこだて未来大学教授）

13：00 開会挨拶

東野 輝夫（日本学術会議連携会員、京都橘大学副学長、工学部教授）

13：05 JST ムーンショット型研究「人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」の概要

萩田 紀博（日本学術会議第三部会員、大阪芸術大学芸術学部アートサイエンス学科学科長／教授）

13：20 誰もが自在に活躍できるアバター共生社会の実現のための諸課題

石黒 浩（大阪大学大学院基礎工学研究科教授）

- 新保 史生（慶應義塾大学総合政策学部教授）
- 13：40 身体的共創を生み出すサイバネティック・アバター技術と社会基盤の開発とその諸課題
南澤 孝太（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）
江間 有沙（東京大学未来ビジョン研究センター准教授）
- 14：00 身体的能力と知覚能力の拡張による身体の制約からの解放とその諸課題
金井 良太（株式会社アラヤ代表取締役）
駒村 圭吾（慶應義塾大学法学部教授）
- 14：20 （ 休憩 ）
- 14：40～15：10 「タイトル未定」
大屋 雄裕（慶應義塾大学法学部教授）
- 15：10 総合討論
（司会）喜連川 優（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、東京大学特別教授）
（パネリスト）
・石黒 浩（大阪大学大学院基礎工学研究科教授）
・金井 良太（株式会社アラヤ代表取締役）
・南澤 孝太（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）
・大屋 雄裕（慶應義塾大学法学部教授）
・藤沢 久美（株式会社国際社会経済研究所理事長）
- 16：40 閉会挨拶
土井 美和子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構監事、東北大学理事、奈良先端科学技術大学院大学理事）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：パンデミックと社会に関する連絡会議

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「みんなで考えるカーボンニュートラルと化学」
の開催について

1. 主催：日本学術会議化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会、環境学委員会環境科学分科会
2. 共催：公益社団法人化学工学会、早稲田大学理工学術院総合研究所
3. 後援：公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、公益社団法人石油学会、一般社団法人触媒学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人日本エネルギー学会、一般社団法人エネルギー・資源学会、一般社団法人環境資源工学会、日本 LCA 学会、NPO エコデザイン推進機構、特定非営利活動法人安全工学会、一般社団法人日本化学工業協会、一般社団法人コンビナート連携推進機構（予定）
4. 日時：令和4年（2022年）7月30日（土）13：00～17：00
5. 場所：早稲田大学西早稲田キャンパス 63号館2階（東京都新宿区大久保3-4-1）
（ハイブリッド開催）
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：
2020年10月に日本政府によって2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルが宣言され、脱炭素社会実現に向けた取組が加速している。システムやプロセスの物質や熱のバランスを速度論的に考察する化学工学と、その速度制御を志向する触媒化学の分野から、カーボンニュートラルに対する化学の役割や可能性とその課題を可能な限り定量的に論じる。加えてリスク管理の観点から、カーボンニュートラル対応が社会に与える影響などを多面的に論じ、次世代を担う学生との議論の場を設ける。
8. 次第：
13：00 開会挨拶
所 千晴（日本学術会議第三部会員、早稲田大学創造理工学研究科教授、東京大学大学院工学系研究科教授）
13：05 講演「物質閉鎖系である地球における適材適所の化学技術」
関根 泰（日本学術会議特任連携会員、早稲田大学先進理工学研究科教授）
13：30 講演「脱炭素社会の実現に向けた炭素・水素循環技術の開発（仮題）」

鈴木 賢 (旭化成株式会社プリンシパルエキスパート、研究・開発本部化学・プロセス研究所長)

13:55 講演「カーボンニュートラルを実現し、地球温暖化を防ぐために何が必要か？
～社会を構成する行政、企業、市民の役割を考える～」

野口 和彦 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学 IAS リスク共生社会創造センター客員教授)

14:20～14:30 (休憩)

14:30 グループ討議とパネルディスカッションの平行セッション

・グループ討議 (ブレイクアウトセッション)

10名×最大10グループ (予定)

分科会委員、大学生・大学院生アシスタント、
高校生及び一般 (事前登録制)

・パネルディスカッション (現地会場と Zoom メイン会場)

15:30～15:40 (休憩)

15:40 総合討論

(司会) 野田 優 (日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授)

(コメンテーター)

辻 佳子 (日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授)

登壇者 等

各グループからの討議結果の発表 (高校生 or 学生アシスタント) 3分×最大10
グループ

登壇者からのコメント、質疑

17:00 閉会挨拶

北川 尚美 (日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル (ネットゼロ) に関する連絡会議

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「ウクライナ戦争の勃発と《共通の安全保障》のゆくえ」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会国際政治分科会
2. 共 催：科学研究費補助金（基盤研究（A）「国際社会における保護・禁止等の範囲をめぐる学際的研究」）（研究代表者：石田 淳）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年7月29日（金）14:00～16:50
5. 場 所：オンライン開催（状況次第ではハイブリッド開催に変更）
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

本シンポジウムは、2022年2月24日のロシアによる侵攻で始まったウクライナ戦争について、なぜ対立が武力紛争化したのか、そしてこれから地球規模の共存の枠組みを再構築できるのかを、国際政治学、国際法、地域研究の観点から議論することを目的とする。

欧州における欧州安全保障協力機構（OSCE）は、特定の国家を排除せず、すべての国家を包摂し、互いに協力することで全体の安全を達成しようとする《共通の安全保障》の理念を体現するものであった。その下で、国内における《多数者による統治》と《少数者の権利》の両立を確認し、少数者の権利保障を理由とする武力による一方的な国境線変更の余地を狭めて各国の領土保全を確かにすることを目指した。今回のロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、この共存の枠組みを大きく揺るがすものであった。本シンポジウムでは、（1）プーチン政権による武力行使の法的根拠、（2）旧ソ連圏における分離紛争の多様性、（3）共通安全保障と集団防衛との関係、及び（4）今回の戦争の「限定性」といった問題を設定して、ウクライナ戦争を学際的に議論し、今後の展望を示したい。

8. 次 第：

14:00～14:05 開会挨拶

鈴木 基史（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）

14:05～14:10 趣旨説明

大芝 亮（日本学術会議連携会員、広島市立大学広島平和研究所長）

14:10～14:30 報告「武力行使の法的根拠の評価」

森 肇志（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

14:30～14:50 報告「旧ソ連圏の分離紛争の比較——非武装地帯の維持と和平交渉のフォーマット」

松里 公孝（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

14:50～15:10 報告「OSCE 安全保障体制と移行期正義」

吉川 元（広島市立大学広島平和研究所特任教授）

15:10～15:30 報告「残虐な限定戦争」

石田 淳（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

15:30～15:40 休憩

15:40～16:00 指定討論

パネリスト

久保 慶一（早稲田大学政治経済学術院教授）

羽場 久美子（日本学術会議連携会員、青山学院大学名誉教授）

16:00～16:45 総合討論・質疑応答

16:45～16:50 総括・閉会挨拶

大芝 亮（日本学術会議連携会員、広島市立大学広島平和研究所長）

総合司会

酒井 啓子（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院社会科学研究院教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の挨拶・報告者等は主催分科会委員）

公開シンポジウム
「地球環境の未来を考えるーカーボンニュートラルの実現に向けてー」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第三部会、北海道地区会議
2. 共 催：国立大学法人北海道大学
3. 後 援：公益財団法人日本学術協力財団（予定）
4. 日 時：令和4年（2022年）8月16日（火）13:00～17:40（予定）
5. 場 所：北海道大学学術交流会館（北海道札幌市北区北8西5）
（ハイブリッド開催）
6. 分科会等の開催：開催予定あり（第三部会）

7. 開催趣旨：

2050年までにカーボンニュートラル（ネットゼロ）の実現が世界各国の共有の目標となっています。カーボンニュートラルの実現には、森林や土地利用といった環境や持続可能な農業政策はもちろん、エネルギー、建築物、交通を含むインフラなどのあらゆる産業において、急速で広範囲なかつてない規模の社会の変革・移行が必要となっています。

本シンポジウムでは、地球環境や気候変動とカーボンニュートラルの関連性やその実現に向けた産業構造の変革について先進的研究を講演頂くとともに、カーボンニュートラル実現社会への学術研究の期待や貢献および課題について、学生たちと共に議論します。

8. 次 第：

13:00～13:20 開会挨拶

梶田 隆章（日本学術会議会長、第三部会員、東京大学宇宙線研究所教授）

吉村 忍（日本学術会議第三部部長、第三部会員、東京大学副学長、大学院工学系
研究科教授）

寶金 清博（日本学術会議連携会員、国立大学法人北海道大学総長）

13:20～13:55 基調講演「カーボンニュートラルの実現に向けて（未定）」

高村 ゆかり（日本学術会議副会長、第一部会員、東京大学未来ビジョン研究セン
ター教授）

13：55～14：25 講演1 「ゼロカーボン北海道：未来をつくること」

山中 康裕（北海道大学地球環境科学研究院教授、国連大学認定 RCE 北海道道央圏副代表）

（14：25～14：40 休憩）

14：40～15：10 講演2 「北海道のバイオマス利活用の意義～事例を踏まえて～」

石井 一英（北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点代表、工学研究院教授）

15：10～15：40 講演3 「東北の経済的な資源循環システムを考える（未定）」

北川 尚美（日本学術会議第三部幹事、第三部会員、東北大学大学院工学研究科教授）

15：40～16：10 講演4 「九州の再生可能エネルギー（未定）」

木村 誠一郎（一般社団法人離島エネルギー研究所代表理事、公益財団法人自然エネルギー財団上級研究員、松下政経塾第35期卒業生）

（16：10～16：25 休憩）

16：25～17：35 総合討論、テーマ「地球環境の未来を考える」

モデレータ 大場 みち子（日本学術会議第三部会員、公立ほこだて未来大学教授）

パネリスト 安田 仁奈（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

（話題提供として、国内外の若者の活動「Mock COP26」などを紹介）

高校生2～3名（話題提供：各々が考える未来を5分程度で発表）＋

講演者5名（高村 ゆかり、山中 康裕、石井 一英、北川 尚美、木村 誠一郎）

17：35～17：40 閉会挨拶

但野 茂（日本学術会議第三部会員、北海道地区会議代表幹事、北海道大学客員教授（大学院保健科学研究院）、北海道大学名誉教授）

17：40 閉会

※本シンポジウムには、札幌市内高校生（100名程度）を招待予定。

総合討論内で高校生からの意見・感想を聞き、それに答える機会を作る。

9. 関係部の承認の有無：第三部、科学者委員会承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の登壇者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「品質保証と創薬研究」の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会、公益社団法人日本薬理学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）11月30日（水）～12月3日（土）のいずれか1日
※第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会
（JPW2022）会期中（時間未定）
5. 場 所：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目1-1）
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

薬学における創薬研究のベースには、医療の再現性を保証するための品質保証がある。従って、社会のニーズに合致した革新的な医薬品を創出するためにも、薬学の根幹にあるモノの品質保証の考え方が重要である。第24期日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会では、2019年6月～9月に、全国の薬学部を対象にアンケート調査「食品・医薬品の品質保証に関する薬学教育の実態調査」を実施した。その結果、モノの品質保証を担当する分野は、薬理学をも包含する広義の医療系薬学分野であることが明らかになったが、現在の薬学教育では「品質の定義」や「品質保証」、「CMC」等に対する教育が十分ではない傾向が見られた。このような背景から、日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会では、報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」を発出した。

本公開シンポジウムは、当該報告を踏まえて、創薬研究に関わる薬理系領域における品質保証の重要性と、これらの分野で貢献できる人材の育成について多角的に議論することを目的とする。

（※CMCとは：医薬品の品質保証を統合的に考える概念で、chemistry, manufacturing and control の略。医薬品の設計から製造プロセス、品質評価まで含めて、その情報およびそれらに関連する領域の総称）

8. 次 第：

座長：合田 幸広（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所所長）

関野 祐子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科特任教授、公益社団法人日本薬理学会監事）

趣旨説明

合田 幸広（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所所長）

(15分) 報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」について（仮題）

合田 幸広（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所所長）

(15分) 品質保証と薬理学教育（仮題）

黒川 洵子（日本学術会議連携会員、静岡県立大学薬学部教授、公益社団法人日本薬理学会理事）

(15分) 品質保証と創薬開発（仮題）

吉永 貴志（エーザイ株式会社高度バイオシグナル安全性評価部部長）

(15分) アカデミアにおけるRS人材の育成（仮題）

堤 康央（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院薬学研究科教授）

（※RSとは：科学技術の進歩によって生み出されたものを、真に人間の利益にかなうよう調整するためのサイエンス。regulatory scienceの略）

総合討論

(15分) 関野 祐子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科特任教授、公益社団法人日本薬理学会監事）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国内会議の後援（3件）

以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第48回全国語学教育学会年次国際大会

主催：特定非営利活動法人全国語学教育学会

期間：令和4年11月11日（金）～11月14日（月）

場所：福岡国際会議場

参加予定者数：約1,200名

申請者：特定非営利活動法人全国語学教育学会 ドーン・ルコヴィッチ

審議付託先：第一部

審議付託結果：第一部 承認

2. 日本科学振興協会第1回総会・キックオフミーティング

主催：日本科学振興協会

期間：令和4年6月18日（土）～6月24日（金）

場所：ハイブリッド開催（6月18日（土）～19日（日））

オンライン開催（6月20日（月）～24日（金））

参加予定者数：約500名

申請者：日本科学振興協会 代表理事 小野 悠

代表理事 馬場 基彰

審議付託先：科学と社会委員会

審議付託結果：科学と社会委員会 承認

3. こども環境学会2022年大会（東京）『クライシスとこどもの環境』

主催：公益社団法人こども環境学会

期間：令和4年6月30日（木）～7月3日（日）

場所：ハイブリッド開催

参加予定者数：約400名

申請者：公益社団法人こども環境学会 代表理事 仙田 満

審議付託先：第一部～第三部

審議付託結果：第一部～第三部 承認

○今後の予定

●幹事会

第327回幹事会	令和4年 6月29日 (水)	13:30から
第328回幹事会	令和4年 7月27日 (水)	13:30から
第329回幹事会	令和4年 8月30日 (火)	13:30から
第330回幹事会	令和4年 9月28日 (水)	13:30から
第331回幹事会	令和4年 10月26日 (水)	13:30から
第332回幹事会	令和4年 11月28日 (月)	13:30から
第333回幹事会	令和4年 12月21日 (水)	13:30から

以降の幹事会日程は追って調整

●総会

第185回総会 令和4年10月24日 (月) ~ 26日 (水)